

ボロニーヤ市友好都市交流協定締結 20 周年記念
公式訪問団派遣報告書

2025 年 12 月 17 日（水）～12 月 22 日（月）

文化・国際交流課



・目次

1	派遣概要	1
2	派遣日程	1
3	派遣日程詳細.....	2
	(1) 1日目【12月17日(水)】	2
	(2) 2日目【12月18日(木)】	2
	(3) 3日目【12月19日(金)】	6
	(4) 4日目【12月20日(土)】 ~	14
4	訪問の成果.....	22
	(1) 全体を総括して.....	22
	(2) 区議会議員所感.....	23
	資料編.....	25
	○協定書.....	26
	○ボローニャ市との交流の経緯.....	27

1 派遣概要

(1) 訪問目的

板橋区とイタリア・ボローニャ市が「友好都市交流協定」を締結して20周年を迎えるにあたり、区の公式訪問団を派遣することによって、今後のさらなる相互交流・発展及び世界平和のための協力関係を確認するとともに、ボローニャ市における様々な分野における取り組みを学び、国際理解・交流の促進を図る。

(2) 板橋区公式訪問団

No.	氏名	役職
1	坂本 健	板橋区長
2	田中 しゅんすけ	板橋区議会議長
3	元山 芳行	板橋区議会議員
4	いしだ 圭一郎	板橋区議会議員
5	くまだ 智子	板橋区議会議員
6	小柳 しげる	板橋区議会議員
7	高田 智也	板橋区区民文化部文化・国際交流課長
8	舟山 百合子	板橋区区議会事務局次長

随行者（区役所出発～帰庁）

名鉄観光サービス株式会社添乗員 植竹 幸恵

2 派遣日程

日付	内容
12月17日 (水) 12月18日 (木)	板橋区役所 → 羽田空港 → ミラノ空港 → ホテル → 友情の絵本交換セレモニー（サラボルサ図書館）、 図書館視察 → ボローニャ市公式夕食会
12月19日 (金)	表敬訪問 → アックルーシオ宮殿・時計台 → 社会的協同組合 CIM → アンテロス美術館 → プラダ工房（鍛冶屋）・マジョーレ広場 → オペラ「セビリアの理髪師」鑑賞
12月20日 (土)	エミリア・ロマーニャ州市民保護局 → 庶民のキッチン → 市立美術コレクション → アルキジナジオ宮殿（解剖学教室）→ 板橋展 → ボローニャチルドレンズブックフェア主催夕食会
12月21日 (日) 12月22日 (月)	ホテル → ミラノ空港 → 羽田空港 → 板橋区役所

3 派遣日程詳細

(1) 1日目【12月17日(水)】・(2) 2日目【12月18日】

時間	内容
20:45	板橋区役所発(バス内にて結団式)
21:30	羽田空港着、搭乗手続き
25:05	羽田空港発 NH207便
8:15	ミラノ空港到着(現地時刻)
15:30	スターホテル エクセルシオール着



●羽田空港を離陸後、約15時間の飛行を経て、日本との時差はマイナス8時間、現地時間の朝8時頃にミラノ・マルペンサ空港に到着した。小雨がちらつく中、現地ガイドと合流し、バスで約4時間をかけてポローニャ市へ向かった。道中、昼食を兼ねて訪れたモデナ(エミリア=ロマーニャ州)では、ユネスコ世界遺産にも登録されているモデナ大聖堂を見学し、イタリアが誇る文化遺産の一端に触れることができた。ポローニャ市に到着後、ホテルでは本公式訪問のコーディネーター及び通訳を務めていただく青山氏、宮下氏が温かく迎えてくださり、今後の視察に向けた準備が整った。

時間	内容
17:00	友情の絵本交換セレモニー、図書館視察 @サラボルサ図書館

<ボローニャ市側参加者>

ヴェロニカ・チェルーティ 図書館及び文化的支援局局長

アントニオ・チッカローネ サラボルサ図書館館長

ダヴィデ・ザッリ 国際局職員

アレッシア・シェンナ サラボルサ図書館スタッフ

ルチア・マナレージ モンテルミチ小学校小学校4年C組担任





●ホテルに到着後、友情の絵本プロジェクトのセレモニーが執り行われるサラボルサ図書館へ向かった。サラボルサ図書館は、かつて「サラボルサ」という商業ギルドの会場として使用されていた歴史的な建物で、特に中庭にあるガラス張りの床が印象的であり、その地下には古代の遺跡が展示されている。ポローニャ市内で文化遺産を守りながら、市民に開かれた場所として運営されているこの図書館は、その歴史的背景とともに訪れる者に深い感銘を与える。

板橋区立中央図書館とサラボルサ児童図書館は2022年に姉妹図書館宣言に署名し、積極的な図書館員同士の交流と情報交換を行っている。この公式訪問に際して執り行われる友情の絵本プロジェクトでは、板橋の子どもたちとポローニャの子どもたちが、それぞれ贈りたい絵本を選び交換するという取組を両者協力のもと進めてきた。

セレモニーでは、ヴェロニカ・チェルーティ氏（図書館・文化的支援局局長）の歓迎のあいさつから始まった。区長からは、板橋区とポローニャ市は絵本を通じて20年以上発展させてきた両都市の友情の深さに対する思いやそれを未来の世代に引き継いでいく意思が語られた。また、板橋区議会を代表して議長が挨拶に立ち、「友情の絵本プロジェクト」は行政のみならず多くの関係者が共に作り上げた交流の象徴であり、ポローニャの子どもたちや図書館関係者への感謝の意が表された。

セレモニーには、多くの関係者やモンテルミチ小学校の児童、先生、保護者が参加し、区長から日本の子どもたちが選んだ絵本が贈られた。絵本を受け取ったポローニャの子どもたちは、初めて目にする日本の絵本に興味津々の様子で、非常に喜んでいた。これにより、長年築かれてきた友好関係が子どもたちを通じてさらに深まり、その絆が未来に向けて繋がっていくことを実感する貴重な機会となった。

セレモニーが終わり、区長から板橋区がユネスコ創造都市ネットワークへの加盟申請を行う意向が伝えられると、ヴェロニカ・チェルーティ氏から「全面的に支持し、協力できることがあればぜひ協力したい」との強い支持の言葉をいただいた。

その後、サラボルサ図書館の職員による館内案内を受け、建物の成り立ちや古代ローマ期の遺跡についての解説を聞きながら、図書館を視察した。特に、地下に公開されている遺構には深い歴史的価値を感じることができた。20世紀に銀行として利用された後、2001年に現在の図書館として開館し、考古学的遺構を市民に公開しながら文化施設として運営されていることに感銘を受けた。また、図書館や美術館のような文化施設においては、継続的な魅力向上のためには、専門的な人材の採用と活用が重要であるとの意見も聞くことができ、非常に有益な学びの機会となった。

時間	内容
19:45	ボローニャ市主催公式夕食会

<ボローニャ市側参加者>

オズヴァルド・パナーロ イノベーション・国際化局局长

セルジョ・パッサナンテ 都市イノベーション財団スタッフ

フランチェスコ・ネッリ 国際局職員



●その後、ボローニャ市主催の夕食会が「カーザ・ボルゴヌオヴォ」にて開催された。夕食会には、過去に板橋区を訪問したオズヴァルド・パナーロ氏（ヨーロッパイノベーション国際化部門総責任者）をはじめ、セルジョ・パッサナンテ氏（都市イノベーション財団スタッフ）らボローニャ市役所の方々が出席され、双方の取組や現況について意見交換を行いながら、交流を深めることができた。オズヴァルド・パナーロ氏は、令和8年4月に開催される「Sushi Tech Tokyo 2026」へ参加のために日本を訪問予定とのことで、その際にはぜひ板橋区にも足を運んでいただき、さらなる友好関係を築く機会としたい。このような交流を通じて、両市の友好関係がますます強固なものとなるよう取り組んでいく。

(3) 3日目【12月19日(金)】

時間	内容
9:30	表敬訪問 @ボローニャ市役所

<ボローニャ市側参加者>

マッテオ・レポレ ボローニャ市長

アンナ・リザ・ポーニ 外務担当評議員

マリア・カテリーナ・マンカ 市議会議員



●滞在2日目は、ボローニャ市への表敬訪問から始まった。市役所に到着すると、アンナ・リザ・ポーニ氏（国際関係・協力、ヨーロッパファンド担当評議員）をはじめ、多くの職員に温かくお迎えいただいた。表敬訪問前には、レポレ市長からのお声掛けを受け、坂本区長とレポレ市長による対談が行われた。両都市は地理的には遠く離れているが、少子高齢化、住宅費用の高騰、自然災害などの共通の課題を抱えており、これらの課題への対応を互いに参考にし、技術提供を含む連携の可能性が確認された。

表敬では、レポレ市長と坂本区長がそれぞれ挨拶を行い、20年間にわたる交流への感謝の気持ちを表すとともに、今後も文化や友情を共有し、両都市の友好関係を積み重ねていく決意を新たにした。また、板橋区議会を代表する田中議長の挨拶では、訪問の受入に対する感謝や訪問を通じて多くの学びを得ることへの思いの意をお伝えした。その後、区長からレポレ市長へ、田中議長からマリア・カテリーナ・マンカ氏（ボローニャ市議会議員）へギフトが贈呈すると、ボローニャ市からも歓迎の挨拶と共に全員にギフトが贈られ、温かい交流の場となった。



表敬後には、その後、地元メディアによる区長と市長へのインタビューが行われ、両都市間での自然災害のリスクなど共通の地域課題に対して今後さらなる連携を模索することが語られた。これまでの絵本中心の文化交流を超え、都市計画や水害対策といった行政・技術課題の解決に向けた両都市の友好関係が、この表敬訪問を契機に、さらに両都市の連携が深まっていくことが改めて実感できた。



時間	内容
10:30	アックルーシオ宮殿・時計台視察

<ボローニャ市側参加者>

パオロ・ベルレン ボーニ評議員付き広報担当



●表敬訪問後には、パオロ・ベルレン氏（ボーニ評議員付き広報担当）の案内のもと、ボローニャ市役所が所在するアックルーシオ宮殿及び時計台を見学した。時計台は、ボローニャ市が商業・学術の中心地として発展を遂げた13世紀に建設が始まり、15世紀に完成したもので、歴史的に重要な意思決定が行われる際の時間的な基準として、市民生活における時間管理の象徴的役割を担ってきたとのこと。石造りの構造にゴシック建築の影響を受けた特徴的な意匠を有し、その歴史的価値と文化的意義は極めて高い。実際に現地を視察することで、こうした歴史的建造物を観光資源として活用しつつ、適切に保存していくことが、地域経済の活性化や文化政策の推進において大きな意味を持つことを強く実感した。また、丁寧な解説を通じて、ボローニャ市が自らの歴史資産を、誇りをもって継承している姿勢に触れることができ、ガイドを行ってくれたパオロ氏に感謝したい。

時間	内容
11:00	社会的協同組合 CIM 視察

<ボローニャ市側参加者>

ダヴィデ・ピエリ コンフコペラティーヴェ エミリア・ロマーニャ州本部農業連盟総責任者

ステファノ・フスティーニ CIM 総責任者

マーラ・ピレットティ CIM 資金調達・広報責任者



●ボローニャにおける社会的協同組合は、地域課題の解決を目的として市民の共同経営により組織・運営される団体であり、利益追求に偏ることなく、高い社会的責任を重視している。今回視察した CIM は、社会的協同組合 B 型に分類され、障がい者や社会的弱者の就労支援を目的として設立された団体である。日本の就労継続支援 B 型事業所に近い形態であるものの、公的補助金に依存せず（税制上の優遇措置はある）、外部事業者からの業務受託を中心に、障がいのある方と健常者が相互に支え合いながら運営されている点が特徴的であった。さらに、外部委託業務に伴う経済的不確実性を乗り越えるため、独自の生産活動にも積極的に取り組んでおり、ボローニャの伝統料理であるトルテッリーニの製造、ろくろを用いた工芸品の制作・販売、各種軽作業など、構成員一人ひとりの能力を最大限に生かした多様な事業展開が行われていた。

CIM では「受容」「美しさ」「ケア」「尊厳」「情念」という五つのキーワードが組合員によって選ばれ、「他の人よりも不得意が強いただけであり、各人に何ができ、何が合っているのか」という視点を常に共有しながら運営がされている。こうした姿勢のもと、社会的協同組合の本質である「成長の機会を提供すること」を実践しており、就労支援を単なる作業提供にとどめず、人の可能性を引き出す仕組みを学ぶことができた。

時 間	内 容
14：30	アンテロス美術館視察

<ボローニャ市側参加者>

エリオ・デ・レオ カヴァッツァ盲学校理事長

ロレッタ・セッキ アンテロス美術館責任者（キュレーター）



●アンテロス美術館は、イタリア・ボローニャ市にあるカヴァッツァ盲学校内に設置された「触る美術館」であり、視覚に頼らず触覚を通じた鑑賞体験の提供に先進的に取り組んでいる施設である。ロレッタ・セッキ氏（アンテロス美術館責任者・キュレーター）による講義では、視覚障がい者が絵画を鑑賞するための具体的手法と、その教育的意義について丁寧な解説が行われた。触覚教材を用い、鑑賞者の手の動きとガイドの言葉を同期させることで、単なる形状の把握にとどまらず、作品のコンセプトや奥行き、背景にある意味まで伝えることの重要性が強調され、さらに鑑賞の理解度を確認し深める方法として、鑑賞者自身が作品を創作する「表現によるアウトプット」の有効性についても示された。

その後、館内に展示された触覚作品や視覚障がい者による模作を拝見したが、いずれも極めて精巧で、触覚作品と模作の区別がつかないほど完成度が高く、アンテロス美術館における取組の質の高さを実感することができた。芳名帳には、区長及び議長より、すべての人に芸術の素晴らしさを教え、伝え、学びを支えている美術関係者及び利用者への深い敬意と、関係者の幸せを祈念するメッセージを記した。



区として、これまでも「さわる絵本」の普及に取り組んできたところであるが、今回の視察を通じ、鑑賞の機会提供にとどまらず、鑑賞者自身の創作活動へとつなげていく取組の重要性と有用性を強く認識する機会となった。

GRAZIE SIMONE E LORETTA!
Caudi da Scavone

letti

全の人に、芸術の素晴らしさを教え、伝へることに努めている美術館関係者、利用者の皆様へ深く敬意を表します。
2026年12月19日 東京都板橋区長 坂本 健
和歌山市 板橋区友好交流者姉妹結成20周年記念訪問

C'è tanto
imparato
Grazie

日本東京都板橋区議会議員より訪問
丁度頂きました。
全マクドナルドにプレゼントが配布予定です。
12/12/2026

ando di un

時間	内容
16:00	プラタ工房視察

<ボローニャ市側参加者>

ピエルルイジ・プラータ CNA（中小企業・職人企業連盟）全国金属加工・芸術的伝統職人部門総責任者



●イタリア・ボローニャは、長い歴史を有するものづくりの都市でもあり、今回訪問したプラタ工房では、その伝統と精神に直接触れる機会を得た。プラタ工房のピエルルイジ・プラータ氏は、中小企業・職人企業連盟における全国金属加工・芸術的伝統職人部門の総責任者を務めており、代々受け継がれてきた高度な金属加工技術を通じて、ボローニャの歴史的な街並みの維持・継承に取り組んでいる。

大規模な仕事に際しては、個々の工房の枠を超え、仲間である職人同士がネットワークを生かして協働することで、技術を地域全体の財産として確立し、次世代へと継承している点も印象的である。こうした職人同士の助け合いの精神や、地域への深い愛着は、これからの社会において求められる「人と人とのつながりの創造」に通じる考え方であり、ものづくりを通じて地域文化を支える意義の大きさを学ぶことができた。

時 間	内 容
19:30	オペラ「セビリアの理髪師」鑑賞

<ボローニャ市側参加者>

オズヴァルド・パナーロ イノベーション・国際化局局长
 セルジョ・パッサナンテ 都市イノベーション財団スタッフ
 フランチェスコ・ネッリ 国際局職員



●ボローニャ市より招待を受け、オペラ「セビリアの理髪師」の初回公演を鑑賞した。ボローニャにおいてオペラは、市民文化と学術都市としての誇りを体現する総合芸術であり、世界最古の音楽教育機関の一つとされるボローニャ音楽院や市立劇場を基盤として、専門家のみならず市民の日常文化として深く根付いてきた。今回鑑賞した公演では、ヒロインであるロジーナ役を、偶然にも日本人で世界的に活躍するオペラ歌手の脇園彩氏が演じており、文化交流の象徴とも言える舞台に立ち会うことができた。

本鑑賞を通じて、ユネスコ創造都市ネットワーク（音楽分野）に認定された「音楽のまち ボローニャ」が長年にわたり培ってきたオペラ文化の奥深さと魅力を強く実感するとともに、音楽という文化を媒介として、人と人々が自然につながり、共に楽しむ姿に深い感銘を受けた。なお、市立劇場は修復工事のため公演を休止しており、今回は「TEATRO COMUNALE di BOROGYA」での鑑賞となったが、本会場は板橋区とボローニャ市の交流の契機ともなった世界最大規模の児童書見本市「ボローニャ・チルドレンズ・ブック・フェア」の会場である BolognaFiere に隣接する場所でもあり、文化を軸とした両都市の縁の深さを改めて感じる機会となった。

(4) 4日目【12月20日(土)】

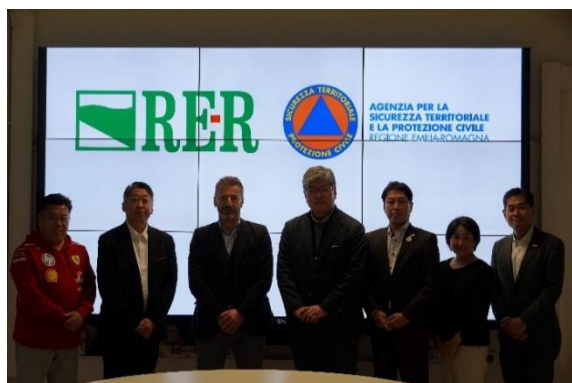
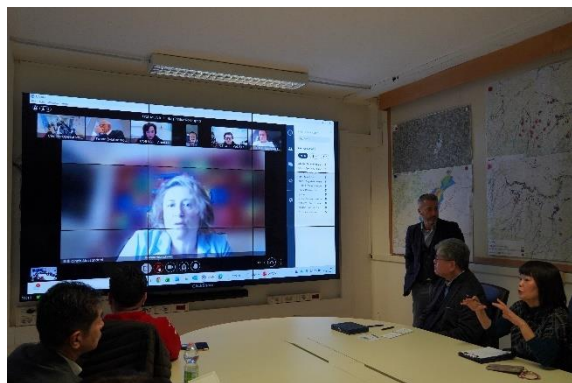
時間	内容
10:45	エミリア・ロマーニャ州市民保護局視察

<ボローニャ市側参加者>

マッシモ・カンプリニ 本部長

アントニオ・モンニ 職員

アンナ・ケレリ 職員 (ボランティア担当)



●滞在3日目となる12月20日は、エミリア・ロマーニャ州市民保護局を訪問し、自然災害への対応や防災体制について視察を行った。同局は州機関として、地震、洪水、土砂災害などの自然災害対応に加え、市民への防災教育・啓発を担っており、特に2023年5月に発生した大規模水害の経験を踏まえ、水害対策に重点的に取

り組んでいる。説明は主にアントニオ・モンニ氏（本部職員）から行われ、欧州における防災体制は、欧州・国家・地域の各レベルが役割分担しつつ相互に補完する仕組みとなっていること、災害規模に応じて市、州、国家、欧州へと対応主体が段階的に移行する構造であることが示された。また、防災活動は「予防・準備・救助・復旧」を循環させるサイクルに基づいて実施されており、エミリア・ロマーニャ州では水系ごとに三つの地区に分けた水害対応を行い、毎日 11 時 30 分に関係機関や専門家が参加するブリーフィングを通じて、18 地区に対する警報の発令と 4 段階の警戒レベルを決定しているとの説明を受けた。

続いて、アンナ・ケレツリ氏（本部職員・ボランティア担当）から、州におけるボランティアの役割について説明があった。州内には約 1 万 9,500 人の構造化されたボランティアが登録され、保険加入と訓練を前提に、市民保護局の運営センターが一元的に調整を行っている。活動内容は、森林火災時の消火、被災住民支援、移動式キッチン設営、動物救助など多岐にわたり、平時から役割を明確にした体制が構築されている点が特徴であった。これらの取組は、区が令和元年の台風第 19 号対応を踏まえ、荒川氾濫を想定して水害避難等対応方針を定めてきた取組とも多くの共通点があり、同様の地域課題を抱える自治体として、今後も防災分野における連携・協力を深めていく必要性を強く認識する視察となった。

時間	内容
12:15	庶民のキッチン視察

<ボローニャ市側参加者>

ドメニコ・イゾラ サッフィ地区責任者



●庶民のキッチンでは、ボランティア団体の運営により「Cucine Popolari（クチーナ・ポポラーリ）」と呼ばれる取組が行われている。同様の施設がボローニャ市内の複数地区に設置されており、経済的・社会的に困難な状況にある人々に温かい食事を提供するだけでなく、人々が自然に集い、交流できる「居場所」として、地域に根差した支援を継続している。

本活動には、延べ80～90名のボランティアが関わり、食堂運営、厨房での調理、食材管理などをシフト制で担う。団体の運営に公的な補助金や助成金は用いられておらず、活動費の大半は新聞掲載などを通じた市民からの少額寄付や特定の大口寄付によって支えられている。また、寄付は金銭に限らず、賞味期限の短い食材や食品など多岐にわたり、結果として地域における食品ロス削減にも寄与している。

このCucine Popolariは、市民の連帯と自発的な寄付によって成り立つ、極めて社会的意義の高い取組である。活動に参加するボランティアは、単なる無償奉仕にとどまらず、活動を通じた自己の能力向上や人間関係の構築を目的としており、地域社会における公的福祉を補完する存在であると同時に、人々のウェルビーイングの向上にもつながっている。社会的背景や制度は異なるものの、区においても「人と人とのつながり」や「居場所」という視点は極めて重要であり、本施設への視察は多くの学びを得る機会となった。

時間	内容
----	----

14:30	市立美術コレクション視察
-------	--------------

<ボローニャ市側参加者>

ダヴィデ・ザッリ 国際局職員

アッスン ガイド（フリーランス）



●ボローニャ市立美術コレクションは、市役所と同じくアックルーシオ宮殿内に所在し、絵画、彫刻、陶器など、ボローニャ市が誇る多様で質の高い文化遺産を展示している。市の中心部に位置することから、市民のみならず観光客にとっても芸術に親しみやすい環境が整えられており、地域の歴史と芸術が一体となって息づく重要な文化拠点として機能している。文化資源を都市の中核に配置し、日常的に市民へ開放する取組は、地域の文化的魅力を高めるうえで極めて有効だと感じた。

時間	内容
----	----

15:30	アルキジンナジオ宮殿・解剖学教室見学
-------	--------------------

<ボローニャ市側参加者>

アッスン ガイド（フリーランス）



●その後視察したアルキジンナジオ宮殿は、市役所近くに位置し、ヨーロッパ最古の大学とされるボローニャ大学の歴史的建築物として使用され、現在は医学博物館としても広く知られている。ボローニャ大学は設立当初より、政治、法学、哲学、医学などの分野において学問と文化の中心的役割を担ってきたが、とりわけ解剖学分野では、16世紀に同大学教授であったアンドレアス・ヴェサリウスが著した『人体の構造について』により、近代解剖学の礎を築いたことでも高く評価されている。

このように、友好都市であるボローニャ市が有する豊かな文化的・歴史的資産を実地に学ぶことは、相互理解を深めるだけでなく、文化や学術を軸とした新たな協力関係の可能性を見出す契機ともなり、今後の都市間交流を発展させていく上で大きな意義を持つと考える。



時間	内容
16:30	板橋展視察

<ボローニャ市側参加者>

ダヴィデ・ザッリ 国際局職員

マリーナ・シンダコ サラボルサ ラブ 総務担当職員



●その後、公式訪問と併せて、ボローニャ市が主催する「板橋展」を視察した。板橋展が開催されたサラボルサ・ラボは、サラボルサ図書館とは別のスペースとして整備されており、カラフルで開放的な内装が特徴的である。来場者は、読書や DVD 鑑賞、レトロなテレビゲームを楽しむことができるほか、3D プリンターを活用した創作活動や工作などにも取り組むことが可能であり、市民が気軽に文化活動を行える居場所として親しまれている施設である。

「板橋展」では、板橋区立美術館にゆかりのあるイラストレーターである、あいざわふみ氏、umeco 氏、なかむらしんいちろう氏によって制作された「いたばしの昔ばなし」の絵本原画が展示されていた。板橋区の文化や物語をボローニャ市の市民に紹介する貴重な機会となり、来場者に地域への理解と親しみを深めてもらう意義深い取組であった。

公式訪問の一環として「板橋展」を開催していただいたボローニャ市に対し、心より感謝の意を表するものである。本展示を通じて、板橋区の文化が海を越えてボローニャの市民に届けられたことは誠に光栄であり、友好都市としての絆が一層深まったことを実感する機会となった。

時間	内容
18:00	ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア夕食会

<ボローニャ市側参加者>

エレナ・パゾーリ ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア事務局長

ディアンナ・ベッルーティ ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア職員



●ボローニャ市での公式訪問最終日の夜には、板橋区とボローニャ市がつながる契機となった「ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア」を主催するブックフェア事務局の招待により、マジェスティック・ジア・パオリーニにおいて夕食会が開催された。

板橋区立美術館とボローニャ・チルドレンズ・ブックフェアとの関係は、友好都市交流協定の締結以前から築かれており、「ボローニャ国際絵本原画展」や「ボローニャ絵本館」の設置、区民まつりにおける「絵本のまち広場」など、絵本のまち板橋において長年にわたり多様な形で交流が継続されてきた。

夕食会の場において、区長から、板橋区が美術館でのボローニャ国際絵本原画展の開催や中央図書館におけるボローニャ絵本館の整備を通じて「絵本のまち」としての特色を形成してきた背景には、ブックフェア関係者の多大な協力があったことへの感謝を述べるとともに、5月に廃校となった学校の中庭を活用し、絵本をテーマとした合唱や演劇の実施を予定していることを紹介した。これに対し、ブックフェア事務局のエレナ氏からは、海外都市との関係構築を積極的に進めてきたのは板橋区であり、その取組が他の国際協力関係へと広がっていることへの感謝の言葉が述べられたほか、絵本文化が今後も様々な形で発展していくことへの期待が語られた。

さらに、区長から、板橋区がユネスコ創造都市ネットワークへの加盟申請を行う予定であることを伝えたところ、エレナ氏より、「板橋区の取組に対して、ブックフェアとしても全面的に協力する」との心強い言葉を得ることができた。絵本を通じて築かれてきた板橋区とボローニャ市の友好関係は、都市間の交流にとどまらず、多くの関係者へと広がり、今後の両都市の発展に大きく寄与するものであることを改めて実感した。

最後に、区長および議長からそれぞれ記念のギフトを贈呈し、ボローニャ市公式訪問の全行程を滞りなく終了した。



《イタリアボローニャ国際絵本原画展 於 板橋区立美術館》

（概要）

「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展 (Illustrators Exhibition)」は、児童書のためのイラストレーション・コンクールの入選作品を紹介する展覧会として、ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェアに伴って毎年開催されます。児童書のトレンドや今後の動向を展覧することができ、新人イラストレーターたちの登竜門としても知られています。59 回目となる 2025 年は、89 の国と地域から過去最多となる 4,374 名の応募があり、日本の 6 名を含む 29 の国と地域の 77 名 (76 組) が入選しました。

（ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェアと「ボローニャ国際絵本原画展」）

ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア (Bologna Children's Books Fair/以下、BCBF) は、毎年春にイタリア北部のボローニャ市で行われる児童書専門の見本市として 1964 年に始まり、2025 年には 62 回目を迎えました。BCBF は 4 日間にわたって開催され、出版社による版權の売買のみならず、展覧会や講演会をはじめとする文化イベントも多数行われ、児童書の新たな企画を生み出す場として世界中から注目されています。

イタリア・ボローニャ国際絵本原画展 (以下、ボローニャ展) は、BCBF に伴って開催される児童書のイラストレーションの展覧会です。1967 年から毎年開催されており、1976 年よりコンペ形式となりました。出版・未出版を問わず子どもの本のために制作した作品 (5 枚 1 組) があれば応募することができます。国籍の異なる 5 人の審査員は毎年入れ替わり、厳正な選考が行われます。実験的な試みも積極的に受け入れ、多様性を重視しながら審査が行われます。

本展は単なる展覧会というだけでなく、イラストレーションの現在や今後の動向、また多様な表現を広く紹介するとともに、新しい才能との出会いの場でもあります。 (美術館 HP より)

4 訪問の成果

(1) 全体を総括して

今回の 20 周年記念公式訪問は、板橋区とボローニャ市が長年築いてきた深い友好関係を改めて感じることも、今後の交流に向けた新たなステップを踏み出す重要な機会となった。まず、ボローニャ市での多くの方々の真摯な姿勢や丁寧は配慮に対して心から感謝申し上げる。

ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェアや美術館のイタリアボローニャ国際絵本原画展をきっかけとした始まった両都市の交流は、様々な方々とのつながりに形を変えて、板橋区とボローニャ市との関係が築かれている。特にサラボルサ図書館での「友情の絵本プロジェクト」のセレモニーを通じて、両都市の子どもたちが絵本を通じて互いに学び合い、文化交流を深める姿を見ることができ、これからの世代に向けた友好の礎が確固たるものになった。

また、ユネスコ創造都市ネットワークへの加盟をめざす板橋区として、加盟都市であるボローニャ市を訪問し、創造性に満ちた多くの文化に触れられたことは大変勉強となった。レポレ市長をはじめ、訪問で出会った多くの方々からいただいた加盟申請に向けた応援やサポートの意向を示していただけたことも、大変大きな成果であると感じる。

今後も国境を越えた交流をさらに深め、互いに学び合いながら両都市の発展に繋げるとともに、世界平和に貢献していく意志をお互いに確認することができた。この意志を後世につなぎ、板橋区の重要なパートナーとして切れ目ない友好関係を続けていきたい。

I sindaci di Itabashi e Bologna si sono incontrati questa mattina in occasione del ventennale del gemellaggio - FOTO

Da Roberto Di Biase - 19 Dicembre 2025



Itabashi (3)

Domani la visita alla mostra Fiabe di Itabashi - Itabashi nella storia attraverso l'illustrazione, allestita in Salaborsa Lab

BOLOGNA - In occasione del ventennale del gemellaggio tra Bologna e Itabashi, Takeshi Sakamoto, sindaco della municipalità di Tokyo in Giappone, e Matteo Lepore si sono incontrati questa mattina a Palazzo d'Accursio. Era presente anche l'assessora alle Relazioni internazionali Anna Lisa Boni (in allegato le foto dell'incontro).

Takeshi Sakamoto e la delegazione di Itabashi sono in città da ieri e si fermeranno fino al 20 dicembre. Il programma delle iniziative per celebrare il gemellaggio, da sempre caratterizzato da intensi e ricchi scambi di esperienze e di persone, prevede varie visite ad alcuni tra i principali musei e centri culturali della città.

※多くのメディアや訪問先団体で、公式訪問をご紹介いただきました。

(2) 区議会議員所感

○田中しゅんすけ 区議会議員

友好都市交流協定締結 20 周年という節目での訪問は、極めて有意義なものとなりました。当初の目的であった「板橋区との相互交流の深化および連携の強化」が図られただけでなく、従来の絵本や原画展といった芸術分野を超え、ボローニャ市が展開する多様な分野の取り組みを学ぶことができました。

一方で、課題も残りました。3泊6日（実質的な現地滞在は2日間強）という限られた時間の中で、調整された行程は非常に過密であり、スケジュール作成のあり方や、現地の文化や慣習に合わせたドレスコードの事前共有については、今後の改善点であると感じています。

そのような状況下でも、サラボルサ図書館にて執り行われた「友情の絵本」セレモニーは、大きな成果の一つです。両都市の子供たちが選んだ絵本を交換し合うこの試みは、両都市の友情を次世代へと広げる貴重な一歩となりました。将来的には、子供たちの相互訪問の実現を目指すべきであると考えます。

また、ボローニャ市役所への表敬訪問をはじめ、障がい者の雇用と社会参加を支援する「社会的協同組合 CIM」、歴史的な解剖学教室を有する「アルキジンナジオ宮殿」、防災教育や災害対応を担うエミリア・ロマーニャ州の「市民保護局」、そして伝統を守るマジョーレ広場の「プラタ工房」など、視察先はいずれも示唆に富むものでした。

加えて、現地コーディネーターによる積極的な広報活動により、今回の訪問がローカルニュースなどの動画や記事として大きく取り上げられたことも特筆すべき点です。こうした発信力は、板橋区における今後の広報戦略を検討する上でも、大いに参考になるのではないのでしょうか。

○元山芳行 区議会議員

イタリア・ボローニャ市の視察については、①ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア (BCBF) 及び②パッケージングバレーがポイントと考える。

①BCBF

地域住民・行政・運営主体が一体となって育成してきた恒例行事であり、試行錯誤を重ねながら持続的に発展し、現在では世界最大規模の児童書見本市として国際的地位を確立している。地域密着型イベントを都市ブランドの向上につなげた好例である。

②パッケージングバレー

包装機械産業に特化した産業集積地であり「コーディネーター企業」が分業体制を統合し、世界市場への競争力を支えている点が特徴である。大学や工業高校、州政府機関などが連携し、産学官一体で人材育成と技術支援を行っている。

また、歴史的なモノづくり基盤、物流機能の集積、充実した文化・教育環境が、経済的・精神的豊かさの両立を実現している。

【総括】

20周年記念事業として訪問したが、記念事業と言えるような企画は無く残念であった。

本区の交流事業の源資は「税金」なので区民に還元できる活動が不可欠であるが、上記の2ポイントが押さえられず区民に報告できる内容は無く職責を果たせなかった。また、私ども議員は、随行者ではなく議員の立場として同行しているわけであるので、ボローニャ市議会議員と「板橋区・ボローニャ市交流事業」についての評価確認が必要であるが、そのチャンスが全く無かった事が残念であり、これでは議員の任務を全く果たせず事業検証ができない。

交流だけならば、事業の執行責任者である首長同士が担えば良く、議員としての交流事業は①十分な意見交換②事業の成果検証この2点を実施する事が不可欠と指摘をする。

総じて、目的と成果を明確にした実効性ある交流事業の設計が求められる。(現状、致命的な欠陥が見られる)

本20周年記念事業は、区民が納めた「税金」で執行されている事を決して忘れてはならないと指摘する。

○いしだ圭一郎 区議会議員

ボローニャ市との友好都市交流協定締結 20 周年を記念する公式訪問に、板橋区議会議員会派代表として参加できたことは、私にとって貴重な経験となりました。

初日はサラボルサ児童図書館にて友情の絵本セレモニーが行われ、図書館長や、坂本区長をはじめ、関係者の方々の挨拶から、絵本を通した都市交流により子ども達と文化を大切に育んできたことによる信頼関係の深さを強く感じました。絵本交換の場面では、先生や子どもたちの素直な言葉に触れ、国境を越えた交流の原点が未来を担う子どもたちにあることを改めて感じました。地下遺跡を含む図書館視察では、歴史と文化を日常に溶け込ませる都市の発想に深い感銘を受けました。

2 日目は市役所公式訪問や社会的協同組合、美術館、伝統工房、オペラ鑑賞などを通じ、文化・福祉・芸術が市民生活に根付くボローニャの歴史的厚みを実感しました。社会的協同組合では障がい者が自信をもって働ける環境づくりに力を注がれている熱意を感じました。

最終日の市民保護局では地震災害ではなく、河川の反乱などによる水害対策についての連携体制を学びました。

庶民のキッチン視察では日本とは異なる移民問題を抱えながら、寄付文化で運営をされていることをお聞きし、ボランティア精神により福祉が充実し、それが実現できる市民性に感心しました。

板橋展の視察では、長年培われた相互理解が具体的な交流成果として結実していることを確認しました。

地道な信頼関係の構築が未来の友好の懸け橋となり、平和交流が築かれていくと実感する視察となりました。

○くまだ智子 区議会議員

ボローニャ市友好都市交流協定締結 20 周年公式訪問団として、ボローニャ市を訪問する機会を与えていただき大変感謝しております。私自身、絵本にとっても関心があるので、世界最大規模である児童書専門見本市に関わっている方と直接話をするのができたことは大変貴重な機会でした。

訪問行程としてはかなりタイトなスケジュールで、防災関連の施設や、障がい者の方の活動する場庶民のキッチンなど、様々な場所を訪問することができました。一方で、場所によっては質問時間が限られてしまう場合もあったと感じました。国によって時間に関する考え方も、交通事情も異なりますので、もう少し余裕を持った行程でもよかったのではないかと思います。また、私にとっては初めての会派を超えた海外視察ということで、各視察場所でどこまで発言してよいのか迷う部分もありました。どのような形が良いのか明確な意見は持ち合わせていませんが、各視察場所で1つは質問をする、この視察場所ではこの人が中心となって質問する、など緩やかな目安があるとよいのではないかと思います。また、板橋の子どもたちとボローニャ市の子どもたちが絵本を選びあったことはほとんど知られていないと思います。ボローニャ絵本館に展示することになるはと思いますが、その広報にも力を入れていただきたいです。

今回派遣していただいた経験を活かし、絵本のまち板橋をさらにアピールできるようにしていきたいと思っております。

○小柳しげる 区議会議員

文化施設、歴史的建造物から、社会的協同組合やボランティア団体によって運営される庶民のキッチンなど、多岐にわたってボローニャを体感することができました。長い歴史を持つ町であり、同時に市民の主導での取組が盛んであるという二つの顔を持つボローニャを知り尽くすことはできないまでも、「ボローニャはこんな町」と魅力を伝えるくらいはできるようになりました。

特に最も印象が深かったのは、アンテロス美術館。視覚障がいのある方のための、「触る美術館」。北斎や宗教画など、絵画を立体化、レリーフにして、触ることによって絵画を、視覚に障がいがあっても鑑賞できるようにした、アンテロス美術館の取組はそれだけで感動的でした。案内していただいた方に「これはダリですよ」といったとき、非常に嬉しそうな表情をされていました。そして、「抽象画は難しいのです」といったときは、悲しそうでした。

芸術の話が続きますが、オペラ「セビリアの理髪師」の鑑賞を楽しみにしていました。しかし、オペラ劇場が建て替え中だったことは残念でした。仮設のためか、タツパが低く、また、舞台装置も簡素なものでしたが、日本人のソプラノの方が演じるヒロインをはじめ、見どころは十分でした。ユネスコ創造都市に音楽で登録されているということですが、そのあたりについて、関係者にお話しを伺うことはできませんでした。

多くの場所を訪問できたことは良かったですが、時間がぎりぎり、質問をしたくても十分な時間が取れなかったのは残念です。

資料編



友好都市交流協定



日本国東京都板橋区とイタリア共和国エミリア・ロマーニャ州都ボローニャ市は、長年にわたる友好関係を尊重し、相互の信頼と尊敬に基づき、これまでの協力関係を発展させ、今後幅広い分野で交流を推進するため、友好都市関係を締結することに合意する。

両都市及びその市民は、文化交流、産業・商工業交流、市民交流の推進を通じて、相互理解と友好・協力関係を深めることに努めるものとする。

現在及び将来にわたる交流が、両都市及び市民の繁栄・発展に寄与するとともに、世界平和に貢献することを希求する。

本協定書は、日本語及びイタリア語を等しく正文とし、署名の日から効力を生ずる。

2005年7月7日

ボローニャ市にて

日本国板橋区長

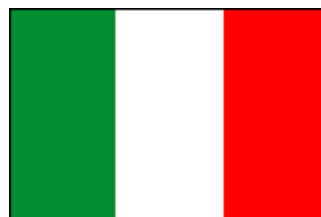
イタリア共和国ボローニャ市長

石塚 輝雄

セルジョ・コッフェラーティ

○ボローニャ市との交流の経緯

区立美術館でボローニャ国際絵本原画展を実施して以来、イタリア・ボローニャ市との絵本を通じた交流が続 き、2005年7月、「友好都市交流協定」を締結した。



○ボローニャ市の概要



人 口	392,791人(2024年統計)
位 置	北緯44度29分 東経11度21分
面 積	140.73km ² (板橋区の4.37倍)
気 候	最高気温 38.2℃ 最低気温 -13.2℃
言 語	主にイタリア語
時 差	-8時間 (夏 -7時間)
産 業	商工業、農業
ボローニャ市 HP	http://www.comune.bologna.it/
イタリア政府観光局の HP	http://visitaly.jp/travel/emilia-romagna/bologna

○交流の経緯

1981年 (昭和56年)		・第1回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
1982年 (S57年)		・第2回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
1983年 (S58年)		・第3回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
1984年 (S59年)		・第4回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
1985年 (S60年)		・第5回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
1986年 (S61年)		・第6回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
1987年 (S62年)		・第7回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
1988年 (S63年)		・第8回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
1989年 (平成元年)	4月	・栗原区長がボローニャ市を訪問
	6月	・第9回ボローニャ国際絵本原画展から区立美術館が幹事館になる
1990年 (H2年)	5月	・栗原区長がボローニャ市を訪問
	8月	・第10回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
1991年 (H3年)	6月	・ボローニャ市のレダ・ロサ氏と、ブックフェア・プロジェクト・マネージャーのフランチェスカ・フェラーリ氏が板橋区を訪問
	8月	・第11回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
1992年 (H4年)	4月	・石塚区長がボローニャ市を訪問
	6月	・ボローニャ市長レンツォ・インバーニ氏が板橋区を訪問

		<u>8月</u>	・第12回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
<u>1993年</u>	<u>(H5年)</u>	<u>4月</u>	・産業訪問団がボローニャ市を訪問
		<u>6月</u>	・ボローニャ歌劇場副理事長ジョルジョ・オルランディ氏が板橋区を訪問
		<u>7月</u>	・ボローニャ見本市協会総局長ルチアーノ・キッキ氏とブックフェア・プロジェクト・マネージャーのフランチェスカ・フェラーリ氏が板橋区を訪問
			・第1回ボローニャブックフェア
		<u>8月</u>	・第13回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>10月</u>	・ボローニャフェスタ
<u>1994年</u>	<u>(H6年)</u>	<u>7月</u>	・第2回ボローニャブックフェア
			・ボローニャフェスタ
		<u>8月</u>	・第14回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
<u>1995年</u>	<u>(H7年)</u>	<u>7月</u>	・第3回ボローニャブックフェア
		<u>8月</u>	・第15回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
<u>1996年</u>	<u>(H8年)</u>	<u>7月</u>	・第4回ボローニャブックフェア
		<u>8月</u>	・第16回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
<u>1997年</u>	<u>(H9年)</u>	<u>7月</u>	・第5回ボローニャブックフェア
		<u>8月</u>	・第17回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
<u>1998年</u>	<u>(H10年)</u>	<u>7月</u>	・第6回ボローニャブックフェア
		<u>8月</u>	・第18回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>9月</u>	・板橋区長がウオルター・ヴィターリ市長と会見
<u>1999年</u>	<u>(H11年)</u>	<u>7月</u>	・第7回ボローニャブックフェア
		<u>9月</u>	・第19回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
<u>2000年</u>	<u>(H12年)</u>	<u>8月</u>	・第8回ボローニャブックフェア
			・第20回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
<u>2001年</u>	<u>(H13年)</u>	<u>7月</u>	・第9回ボローニャブックフェア
			・第21回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
<u>2002年</u>	<u>(H14年)</u>	<u>7月</u>	・第10回ボローニャブックフェア
			・第22回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
<u>2003年</u>	<u>(H15年)</u>	<u>5月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月</u>	・第23回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
			・ボローニャ見本市協会国際児童画展プロジェクトマネージャー、エレナ・パゾーリ氏が来訪
		<u>8月</u>	・第11回ボローニャブックフェア

<u>2004年</u>	<u>(H16年)</u>	<u>5月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月</u>	・第24回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第12回ボローニャブックフェア
		<u>9月</u>	・「いたばしボローニャ絵本館」開館
<u>2005年</u>	<u>(H17年)</u>	<u>4月</u>	・小島助役が友好都市調査のためボローニャ市を訪問
		<u>5月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月7日</u>	・ボローニャ市と「友好都市交流協定」締結(ボローニャ市にて) ・第25回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催 ・第13回ボローニャブックフェア
		<u>9月</u>	
<u>2006年</u>	<u>(H18年)</u>	<u>5月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>6月</u>	・ボローニャ市友好代表団が板橋区を訪問
		<u>7月</u>	・第26回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第14回ボローニャブックフェア
		<u>11月</u>	・ボローニャ市友好代表団がいたばし産業見本市視察のため板橋区を訪問
<u>2007年</u>	<u>(H19年)</u>	<u>5月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月</u>	・第27回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第15回ボローニャブックフェア
		<u>10月</u>	・ボローニャ市長特別秘書官が板橋区を訪問
		<u>11月</u>	・区民ツアー(20名)がボローニャ市庁舎を表敬訪問、市民宅をホームビジットし、市民交流を実施
<u>2008年</u>	<u>(H20年)</u>	<u>5月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月</u>	・第28回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第16回ボローニャブックフェア
<u>2009年</u>	<u>(H21年)</u>	<u>1月</u>	・ボローニャ市民が板橋区を訪問
		<u>5月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月</u>	・ボローニャ市青少年コーラスグループが板橋区を訪問し、ギャラリーコンサートを実施 ・第29回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第17回ボローニャブックフェア
<u>2010年</u>	<u>(H22年)</u>	<u>3月</u>	・常盤台小学校合唱団がボローニャ市を訪問
		<u>5月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月</u>	・第30回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第18回ボローニャブックフェア
		<u>10月</u>	・「イタリア・ボローニャフェア」を第39回板橋区民まつりにおいて開催 ・ボローニャ市暫定市長アンナマリーア・カンチェリエーリ氏と国際交

			流担当フランチェスカ・マルティネーゼ氏が板橋区を訪問
		<u>11月</u>	・区民ツアー（20名）がボローニャ市を訪問、市民宅へのホームビジットや常盤台小学校と交流のあるアルマンディ・アポーリ小学校を訪問
<u>2011年</u>	<u>(H23年)</u>	<u>3月</u>	・ボローニャ市長より、東日本大震災に対する見舞状が届く
		<u>4月</u>	・ボローニャ市において、在住日本人市民グループを中心として「東日本大震災被災地支援チャリティーコンサート」及び日本文化を紹介するイベントが開催される
			・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>5月</u>	・4月のイベントで、復興の願いを込めて市民が折った千羽鶴が、ボローニャ市在住オペラ歌手 櫻田 亮氏から区長へ手渡され、大船渡市へ届けられる
		<u>7月</u>	・第31回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第19回ボローニャブックフェア
<u>2012年</u>	<u>(H24年)</u>	<u>6月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月</u>	・第32回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第20回ボローニャブックフェア
<u>2013年</u>	<u>(H25年)</u>	<u>6月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
			・第33回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第21回ボローニャブックフェア
<u>2014年</u>	<u>(H26年)</u>	<u>6月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月</u>	・第34回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第22回ボローニャブックフェア
<u>2015年</u>	<u>(H27年)</u>	<u>5月</u>	・ボローニャ市公式訪問団（市長助役と国際交流・企画課長）が板橋区を訪問（5月28日～30日）
			・10周年記念イベント「Ciao Bologna!」を実施（5月25日～29日）
		<u>6月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月</u>	・区代表団（区長ほか9名）がボローニャ市を訪問
			・10周年記念事業 イタリアチーズ講座を実施
			・第35回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第23回ボローニャブックフェア
		<u>11月</u>	・いたばしウォーキング大会で、友好都市提携10周年記念ゼッケンを配付
<u>2016年</u>	<u>(H28年)</u>	<u>6月</u>	・ミニ・ボローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>7月</u>	・第36回ボローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第24回ボローニャブックフェア
<u>2017年</u>	<u>(H29年)</u>	<u>5月</u>	・ボローニャ大学国際交流担当者が国際交流にかかる区内大学との連携

- について意見交換のために板橋区を訪問
- 2018年 (H30年)
- 6月 ・ミニ・ポローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
 - 7月 ・第37回ポローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
 - 8月 ・第25回ポローニャブックフェア
 - ・ポローニャ市市長役が板橋区を訪問
 - 2月 ・中央図書館改築に伴うポローニャギャラリーデザインコンテストをポローニャ市と協働開催、第一次審査をポローニャ市、第二次審査を板橋区で実施。
 - 2022年にコンテスト最優秀受賞者2名にイタリアと日本の往復航空券を贈呈、中央図書館を訪問
- 2019年 (令和元年)
- 6月 ・ミニ・ポローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
 - 7月 ・第38回ポローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
 - 8月 ・第26回ポローニャブックフェア
 - 10月 ・区役所1階にて日伊の精神障がいを持つ方のアート作品等の展示実施（区後援事業）、ポローニャ市市長助役、エミリア・ロマーニャ州立ポローニャ地域保健連合機構精神保健局長等訪問団が板橋区を訪問
- 2020年 (R2年)
- 6月 ・ミニ・ポローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
 - 7月 ・第39回ポローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
 - 8月 ・第27回ポローニャブックフェア
 - 6月 ・ミニ・ポローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
 - 7月 ・第40回ポローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
 - 8月 ・第28回ポローニャブックフェア
 - 10月 ・15周年記念イベント ポローニャ、アモーレ！（本庁舎1階での展示）
 - 12月 ・15周年記念オンライントークイベント「Buono!イタリア～料理から知るイタリアの文化～」を実施
- 2021年 (R3年)
- 3月 ・中央図書館にポローニャギャラリーを設置
 - 7月 ・第41回ポローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
 - 8月 ・第29回ポローニャブックフェア
 - ミニ・ポローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
 - 12月 ・ポローニャギャラリーにてポローニャ在住イラストレーターヴァレリア・ヴァレンツァ企画展示
- 2022年 (R4年)
- 3月 ・ポローニャ市立サラボルサ児童図書館と中央図書館の姉妹図書館提携締結
 - 22日
 - 7月 ・第42回ポローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
 - 8月 ・第30回ポローニャブックフェア
 - ミニ・ポローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
 - 10月 ・ポローニャギャラリーデザインコンテスト最優秀賞受賞者2名にイタ

			リアと日本の往復航空券を贈呈、中央図書館訪問
<u>2023年</u>	<u>(R5年)</u>	<u>11月</u>	・ポローニャ市長が板橋区役所を訪問、中央図書館視察
<u>2023年</u>	<u>(R5年)</u>	<u>7月</u>	・第43回ポローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催
		<u>8月</u>	・第31回ポローニャブックフェア ミニ・ポローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
		<u>11月</u>	・ポローニャ市長が板橋区役所を訪問、中央図書館視察
<u>2024年</u>	<u>(R6年)</u>	<u>7月</u>	・第44回ポローニャ国際絵本原画展を区立美術館で開催 ・ポローニャ・チルドレンズ・ブックフェア事務局長エレナ・パゾーリ氏が板橋区役所へ表敬訪問
		<u>8月</u>	・第32回ポローニャブックフェア ミニ・ポローニャブックフェアを区立図書館で巡回実施
<u>2025年</u>	<u>(R7年)</u>	<u>12月</u>	・「友好都市交流協定」締結20周年を記念して、板橋区公式訪問団がポローニャ市を訪問

ボロニア市友好都市交流協定締結 20 周年記念
公式訪問団派遣報告書
編集 区民文化部文化・国際交流課
令和 8 年 1 月 30 日